

ぶどうの有望品種「サニールージュ」

農林総合研究センターりんご試験場栽培部

ぶどうに対する消費者の嗜好は、果粒が大きく、糖度が高く、無種子の品種に移行しつつある。

りんご試験場では、本県に適した新品種を検討してきたところ、いくつかの有望品種を選抜することができた。その中から、旧農林水産省果樹試験場が「ピオーネ」に「レッドパール」を交配し、育成した「サニールージュ」の特性について、紹介する。

露地で栽培すると、収穫時期は9月中下旬であり、耐寒性も強いので、「キャンベル・アーリー」に代わりうる品種である。また、無加温ハウスで栽培すると、お盆前の出荷をねらうことができる。ただ、自然状態では、果房や果粒が小さいので、ジベレリン処理が必要であり、無核果粒の結実促進と果粒肥大のため、2回処理すると、1粒重が6 g程度、房重が350 g程度の果房を安定して生産できる。また、果粒は赤褐色の短楕円形となり、見た目にも高級感があり、糖度も18%程度と高く、食味も良好である。



有望品種「サニールージュ」